

徳大病院にドクターカー

医学部卒の濱本さんが寄贈

徳島大医学部卒で、南青山ひだまりクリニック(東京都港区)院長の濱本恒男



さん(74)が、徳島大病院にドクターカー1台を贈った。他の医療機関への患者搬送や、DMAT(災害派遣医療チーム)の被災地の救護活動などに使われる。同病院のドクターカーは2台体制になる。

同病院で12日に贈呈式があり、河村保彦学長に鍵のレプリカを手渡した濱本院長は「徳島の人に温かく見

守られて医者になれた」と述べ、出席した同大DMATチームに「頑張つて」と声をかけた。河村学長は「地域医療の質向上の取り組みを前進させる実装の力になる」と感謝を伝えた。

同病院によると、既存のドクターカーは2006年に導入されたもので古く、DMATチームが派遣された能登半島地震の現場などでの活用はできていなかった。母校への感謝の思いを伝えたいと濱本院長が物品の寄贈を申し出て、院内から要望のあったドクターカーを寄贈することにした。

(北村里沙)

徳島新聞令和8年3月23日掲載
コピー、転載禁止